

### 第3回 伊予市地域公共交通活性化協議会

■日 時：2023（令和5）年12月20日（木）10:00-11:30

■場 所：伊予市役所 4階 大会議室

■出席者：委員21人中18人出席

#### ■開 会

--- 会長（伊予市副市長 青野 昌司）挨拶 ---

#### ■議事

##### （1）伊予市の概況及び地域公共交通に関する現状について

事務局

--- 資料1：伊予市の概況及び地域公共交通に関する現状の説明 ---

##### A委員

- ・双海及び中山地域で運行されているデマンドタクシーの一人当たりの公的負担額が6,400円であることを踏まえると、むしろ一般タクシーの利用を奨励し、1,000円～2,000円の補助を検討する方が合理的であると思う。地域でのデマンドタクシーの利用率が依然として低いのは、地域のニーズに合っていない可能性があり、伊予市中心部やその周辺の医療機関への移動に需要があるため、双海と中山地域に限定されたエリアにしか行くことができないデマンドタクシーがあまり利用されない可能性がある。
- ・これだけの経費をかけるのであれば、助成金を提供する方がはるかに合理的だと思う。また、デマンドタクシーと一般タクシーの競合についても検討する必要がある、タクシーの廃業に対する対策についても真剣に考えていただきたい。デマンドタクシーと一般タクシー事業が協力し合う形で展開されれば、解決できる可能性もある。廃業に関しては、国土交通省の方でも、合併という形で事業承継が可能な仕組みを検討していただければと思う。

事務局

- ・双海及び中山地域においては、現在デマンドタクシーの形態で運営しているが、ご指摘の通り、利用者が極めて少ない状況であり、これまでの傾向が続けば一人当たりの公的負担額がさらに増加する可能性がある。玉井委員が述べられた内容も考慮し、今後の対策について検討していきたいと思う。また、県や国にご指導を受けながら、最終的には地域の皆様のご意見をアンケートや区長会などを通じて収集し、各意見を取り入れながら、どのような方向性で取り組んでいくかを検討していきたいと考えている。

##### B委員

- ・地域の車（緑ナンバーのタクシー車両）は数多くあるが、現状、運転手の不足が課題となっており、地域のタクシー車両数と需要がマッチしてない。最近では、ライドシェアに関する話題が浮上しており、これは自家用車をタクシーのように運用し、配車マッチングアプリなどを通じて運転手（自家用車を持ちタクシーとして活用したい人）と利用者（タクシーで移動したい

人)をマッチさせ、運転手がお客さんを運ぶことで報酬を得るサービスである。我々としては、ライドシェアに対して反対というわけではないが、賛成もしていない。なぜなら、事故時の安全性やお客さんの安心感、自動車の管理（任意保険への加入状況など）などに関する課題が存在し、また、ライドシェアの意味や解釈が人によって異なり、国として判断が難しいからである。現在もライドシェアに関する議論はされており、将来的に導入される可能性があるかもしれないが、その際には、運転者と利用者の双方が安心して利用できる環境を整えたいと思っている。

- ・運転手不足に関して、先程玉井委員が触れたように、現在は会社同士が事業の承継を進める枠組みがある。これに加え、運転手不足への対応としてライドシェアの検討も行われていると思う。また、タクシー事業者が地域の住民と連携して、地域の移動手段を確保する取り組みもあり、地域の需要に適した移動手段を考え、タクシーやバスなどが役割を分担するなど、事業者同士で協力し、良い形にできればと思う。
- ・公共交通で収益を上げ、儲けるのは難しく、自治体の負担も発生する可能性がある。負担が高くなりすぎると、自治体も支えきれなくなるので、これを考慮しつつ相談していただければと思う。

#### A委員

- ・デマンドタクシーや他の公共交通において、利用者の自己負担額があまりにも低すぎると思う。200円～300円で移動できると思うことが間違っている。最低でも500円～1,000円程度に引き上げないと、公共交通を維持できない。
- ・ライドシェアに関しては、国土交通省の所管の中で規制をしていただき、公平に扱っていただくことが必要だと思う。
- ・タクシー事業者としては、個人事業主としてのタクシー運転を認め、登録する仕組みを作り、地域の移動を支えるために協力する方法も検討すべきであると思う。

## (2) 公共交通に関するアンケート調査結果について

#### 事務局

--- 資料2：公共交通に関するアンケート調査結果の説明 ---

#### B委員

- ・鉄道利用者アンケートについて、6頁によると、JR5駅の利用者と伊予鉄道郡中線3駅の利用者に対してアンケートを配布し回収したとのことで、7頁以降にアンケート結果が示されているが、満足度や改善ニーズといった結果については、JRと伊予鉄道の利用者の回答が混ざっていると思う。JRは広域エリアでの利用が主であり、一方で伊予鉄道は伊予市と松山市の隣町同士の移動も対象となっているので、利用者の満足度や改善意見などを混同せず、JRと伊予鉄道の利用者それぞれについて別々に集計し、分析することが望ましい。
- ・JR利用者と伊予鉄道利用者の回答に関するそれぞれの集計結果を教えてください。

#### 事務局

- ・JRと伊予鉄道を別々に集計、分析し、次回ご提示させていただく。

## A委員

- ・双海及び中山地域において、タクシー事業者が廃業しないように考慮すべきであり、そうでなければ、これらの地域は本当に不便な地域になってしまうと思う。最近も中山地域でタクシー事業者が1社廃業したが、デマンドタクシーの運行に膨大な費用を使うのであれば、例えば、タクシー事業者に対して、乗務員が1人増えた場合には補助金を出すなどの支援をしてもらった方が良い。こういった措置により、タクシー事業者に対する補助を増やし、タクシーの活性化を促進するような仕組みを作っていただきたいと思う。地域の方々にとっても、タクシーをより利用しやすくなるための検討が重要である。
- ・また、例えば、日曜日などにはタクシーを運行していない事業者もあるが、タクシーは年中無休で運行されるべきであり、できる限り日曜日に運休する事業者は少ない方が良いと思う。タクシー事業者の廃業を防止し、活性化を促進するためには、場合によっては大きな会社を買収・合併するなどの手段も含めた対策が必要である。地域においてタクシーが不足すると、ライドシェアの検討も必要になる可能性があるが、デマンドタクシーに対して行政からこれだけの予算を組むのであれば、その予算の効率的な割り振りについても考える必要があると思う。

## 事務局

- ・双海及び中山地域では、それぞれ1社のタクシー事業者がいるが、現在、デマンドタクシーを含む様々な運行方法について、各タクシー事業者に聞き取りを行い、協議を進めている。この中で、最適な運行方法を模索しており、デマンドタクシーと一般タクシーが共存し、共栄できるような取り組みを進めたいと思っている。

## B委員

- ・利用者アンケートの結果からは「デマンドタクシーで目的地まで直接行けない」、「帰りの待ち時間が長い」といった意見が寄せられているが、デマンドタクシーの運行エリアが限定されているため、これに対応するのは難しいと思われる。しかし、双海と中山地域にはJRが運行しており、今後、海岸線を走る予讃線について検討するという事になっているが、例えば、双海と中山地域のデマンドタクシーを利用して最寄りのJR駅まで行き、そこから伊予鉄道駅や伊予市中心部までの移動においては割引を提供するなど、デマンドタクシーと鉄道を連携させた政策も1つの選択肢になるのではないかと思う。先ほど言われたように、双海と中山地域ではタクシー事業者が運転手不足などで厳しい状況にある場合、補助をするということも考えられるが、一般タクシーも地域内の移動において重要な役割を果たしており、最寄りのJR駅までの輸送後、JRで伊予市駅に到着した後にコミュニティバスに乗車する際に割引が提供される施策を検討するなど、既存の公共交通との連携が不可欠である。
- ・人手不足や運転手不足は、鉄道やバスも同様の状況である。玉井委員が述べたように、これらの交通手段がよりよい形で共存できるような取り組みを模索しなければならない。
- ・国土交通省においても、人材育成などに対する補助を提供する制度がある。また、地域のニーズに応じた取り組みを支援するために、地域の取り組みと公共交通を組み合わせた共創プロジェクトなども行っているため、我々としても、地域の要望に応じてしっかりと支援していきたいと考えている。

### (3) 伊予市公共交通の課題について

事務局

--- 資料3：伊予市公共交通の課題についての説明 ---

C委員

- ・地域公共交通の課題に関して、どの順番で列挙されているのか教えていただきたい。デマンドタクシーについて最初に述べられているが、同様の内容が5番目にも掲載されており、網羅的に整理されているとは感じられず、むしろ、思いついた順に記載されている印象を受ける。
- ・例えば、地域公共交通の現状に関して、介護タクシーが伊予地域にしか存在していないとの記載があるが、課題として挙げられていないことが気になる。

事務局

- ・文章の中で記載の順番的が前後しているが、本市としても双海及び中山地域のデマンドタクシーに関する課題を最優先で取り組むべきであると考えている。地域のニーズは多岐に渡り、デマンドタクシーをどのように維持していくか、また JR への乗り継ぎや利便性に関連して、デマンドタクシーを利用して伊予地域の方面に移動したいと思っている方が多くいる。特に JR に関しては、双海地域から伊予地域方面への便数が極めて少ないことを問題視しており、例えば病院への診察などで利用するのに帰りの便がないという状況もある。
- ・ご指摘いただいた通り、課題の記載順序については、次回の会議までに、現状と課題、解決策の関連性が分かりやすくなるように修正し、ご提示させていただければと思う。

C委員

- ・1つの課題に対して1つの解決策が存在する場合もあれば、2つの課題に対して1つの解決策が適用される場合もあるので、そうしたことも踏まえ、現状と課題、解決策の相関がわかり、かつ優先順位がある場合は、それらも分かりやすく整理していただければと思う。
- ・市民や利用者のニーズと事業者側の課題に関する視点も重要であると思うので、ぜひこれらの要素も追加した方が良いと思う。

会長

- ・課題などの整理方法について、改善いただきたい。
- ・最後に記載されている課題について、JRの課題を考慮する場合、地域との連携なども十分に検討すべきである。

A委員

- ・事業の継続性を考慮し、地域公共交通は単に住民に寄り添うだけではなく、地域の住民がどのような負担をするべきかを協議し、地域の住民も主体的に考える仕組みが必要である。
- ・現在、行政が提供しているサービスは過剰であると思う。このような過剰なサービスから脱却し、地域住民が積極的に自らができることを含め、考えていくべき段階に入っていると思う。
- ・40年、50年前に遡れば、伊予市駅周辺には小さなお店や飲食店が多く立ち並んでおり、地域の人々が小さなお店に集まり、様々な活動をしていた。しかし、これらの場所は今ではほとんど

なくなってしまった。スーパーを批判するわけではないが、今後は公民館や集会所に商業機能や介護機能などを付加させ、地域住民が購買活動を通じて雇用を生み出す仕組みを作ることが重要であると思う。例えば、地域住民が100世帯を超えた場合、そこでの消費額は相当なものになると思う。これにより、そこでパート職員が雇えるのではないだろうか。また、そこで介護サービスの提供が可能になったり、停留所のような機能が組み込まれたりすれば、公共交通手段が地域内で運用されることも、国土交通省と相談すれば実現できるかもしれない。そうしたことも含めて、地域の住民には何ができるのか、我々事業者としては何ができるのかを真剣に考えていくべき段階に入ったと思う。デマンドタクシーの運賃の200円が高いという話ではなく、500円や1,000円であろうと、必要な人は利用すると思う。払いが難しい人に対しては、無料券や割引券を発行すれば良く、救貧施策は別途考えれば良いわけであり、住民の負担については、行政だけではなく、住民自体も真剣に考えていく必要があると思う。

## B委員

- ・玉井委員が指摘されたように、公共交通は市民に利用してもらうことと同時に、これを担う事業者にとっても共存できるものでなければならないと思う。先程運賃について言及があったが、他の地域では100円でも利用されない場所もある。やはり、利用者にはそれなりの負担が必要であり、行政もその負担を支える必要がある。ただし、本来かかるべき1,000円の運賃を利用者が100円だけ支払い、残りの900円を自治体が補助するといった場合、その補助金も市民の税金あり、それを考慮してどこかで折り合いをつけなければならない。利用者のニーズには「直接行きたい」や「1時間に1本あったらいい」といった意見があったが、これらも含めて妥協点は見つけなければならない。
- ・公共交通全体を見ると、伊予市には鉄道やJR、バスなど複数の交通手段がある。これらを効果的に活用する方法についても検討が必要である。特に、伊予市は松山市に近く、直通的な電車もあるため、これらとの連携は必要不可欠である。
- ・鉄道に関しては、減便や日曜日のダイヤにおいても影響が出ている。バスも同様の問題があり、これが解消されない場合、自家用車主体の移動に変わり、高齢者の増加とともに自家用車が利用できない方が増加する可能性がある。その結果、デマンドタクシーやコミュニティバスで移動を確保するしか方法がなくなり、そうなれば財政に影響が出る可能性も考えられる。今ある交通手段を有効に活用しながら考えることが必要であると思うので、課題には既に記載されているが、この点についても今後を見据えて検討していただきたいと思う。

## A委員

- ・周りの人に郡中港駅から松山市駅まで鉄道を利用して行ったことがあるか尋ねてみると、鉄道に乗ったことすらないという方がかなりいるそうである。車社会に完全に浸っており、そこから抜け出すことができていない状況である。この車社会から脱却するためには、少しずつ鉄道を利用する習慣を身につける必要があり、特に伊予鉄道にお願いしたいのは、隣駅への移動なら無料といった施策を検討していただきたい。これにより、住民が鉄道に乗る習慣を身につけ、鉄道利用が促進され、運賃を上げずとも鉄道が維持できると思う。

- ・こうした施策を含めてアンケートを行うことができたら良いと思う。鉄道に乗ったことがない方もいるが、利用を促進できるような施策を導入すれば、鉄道に乗る意欲が高まると思うので、鉄道事業者も真剣に考えていくべきであると思う。
- ・JRも隣駅なら無料にしても良いと思う。また、乗車のためのサービス向上を図れば、乗車回数が増え、利用の経験をする人が増えることで利用者数も増加すると思う。

#### **(4) 今後の予定について**

事務局

--- 資料4：今後の予定についての説明 ---

(意見・質問 特になし)

**閉会**

以上